

- 1 「起きよ」と呼ぶ声、「めざめよエルサレム」
夜警(ものみ)ら、叫さけびて、
闇夜をつらぬき、ひびきわたる声よ。
「備えよ、おとめら」。
いざ、ともし火 高くかかげ ハレルヤ。
花婿迎え、祝いの宴げに。
- 2 めざめしおとめら 喜こびてそなえぬ、
夜警(ものみ)らの声に。
栄に輝かがやく 花婿なる主イエス
いまこそ来ましぬ。
人となりし 神のみ子よ、ホサナ。
聖なる宴に よろこびあずからん。
- 3 「グロリア」とたたえよ、みつかいらとともに、
たてごとかなでて。
主の御座めぐりて 集う聖徒たちと
うたごえあわせて。
未まだ知らぬ この喜び、ハレルヤ。
われらもうたもて ほめたたえよ、アーメン。

1 »Wachet auf«, ruft uns die Stimme der Wächter sehr hoch auf der Zinne, »wach auf, du Stadt Jerusalem! Mitternacht heißt diese Stunde«; sie rufen uns mit hellem Munde: »Wo seid ihr klugen Jungfrauen? Wohlauf, der Bräut'gam kommt, steht auf, die Lampen nehmt! Halleluja! Macht euch bereit zu der Hochzeit, ihr müsset ihm entgegengehn!«

2 Zion hört die Wächter singen, das Herz tut ihr vor Freude springen, sie wachet und steht eilend auf. Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig, von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig, ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf. Nun komm, du werthe Kron, Herr Jesu, Gottes Sohn! Hosianna! Wir folgen all zum Freudensaal und halten mit das Abendmahl.

3 Gloria sei dir gesungen mit Menschen– und mit Engelzungen, mit Harfen und mit Zimbeln schön. Von zwölf Perlen sind die Tore an deiner Stadt; wir stehn im Chore der Engel hoch um deinen Thron. Kein Aug hat je gespürt, kein Ohr hat mehr gehört solche Freude. Des jauchzen wir und singen dir das Halleluja für und für.

コリントⅡ12:9 「主は、「私の恵みはあなたに十分である。私の力は弱さのうちに完全に現れるからである。」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」(新改訳版)

21世紀の現在、疫病は、幸福を追求し、病いや死から自由になることを願ってきた人類を、再び苦難や悲惨によって脅かしているようにみえます。世界経済は、1929年の大恐慌以来の落込みを経験していますが、80年前とは異なり、先進諸国では、大規模な金融緩和の結果、資産価格は維持又は上昇し、格差は拡大している模様です。経済活動は停滞しても、気候変動の影響はすぐには緩和されません。地球上から多くの生物が日々絶滅していく現実を理解する人も少ない状況です。経済学者に危機感に乏しく、技術進歩と経済成長で問題を解決することを議論するだけなら、経済学への不信感が高まるばかりではないでしょうか。

本日お読みしたのは、使徒パウロの書簡です。パウロは危険な病を抱えて、日々苦しんでいたので、神様に対して繰り返し、自分をこの悲惨から解放してほしいと願っていたようです。

神様は「私の恵みはあなたに十分である。私の力は弱さのうちに完全に現れるからである。」と言われたというのです。これを読んでどう思いましたか。がっかりすることは、なかったですか。怒りを覚えるひともいるのでしょうか。

この言葉だけみれば、現在、感染症との共存に苦しむ私たちには、あまりに厳しい言葉に思えます。神様は、私たちを見放す神様なのではないでしょうか。ところが、そのあと続けて、「私の力は弱さのうちに完全に現れるからである。」と語られています。

私たちが、神様に「恵み」を求めて叫んでいるのに、神様は何をなさらないように思えます。このように、そもそも「恵み」ということばは、理解することが難しいことばです。聖書に書かれているのは、「神様の力は、弱さの中で強い」という逆説です。

幸福を奪われ、生きる喜びが失われ、再起することも困難な人々のなかで、こそ、神様の「恵み」が働くというように読めます。この世は、神なき世界なのではなくて、人間が弱く、小さくなってしまったところにこそ、神様が介入して何事かを成し遂げられるということです。神様は、この世において、弱いところに働かれるのであって、強い者を支えることはなさらないのです。

私たちは、旧約聖書の「士師記」で、イスラエルの指導者ギデオンの物語を読みました。敵への恐れから数に頼もうとしたギデオンに対し、神様は軍勢を100分の1に減らし、ギデオンと人々が守られたことを想起してください。

人々の弱さや惨めさに対する共感、幸福や強さを追求することに必死だった私たちを変えます。「私の兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。(マタイ25:31-40)。」

私たちには、まだ見えませんが、コロナ危機後の来るべき世界が、力により頼むことなく、弱さを尊重し弱さから学ぶ世界になるよう、私たち自身神様の働きのなかに入れられることを、心から願っております。